

共創

「逆さ地図」を見ながら

富山県が発行している「環日本海・東アジア諸国図」（通称：逆さ地図）という地図があり、多方面から人気を集めているという記事が新聞に掲載されていました。この地図のことは以前から知っていましたが、尖閣諸島、竹島、北方領土のことが問題になっていることもあり、興味深く読みました。

これは「県が進めている環日本海交流拠点作りを国内にPRするとともに、中国、ロシア等の対岸諸国に対し日本の重心が富山県沖の日本海にあることを強調するため、従来の視点を変えて北と南を逆さにし、大陸から日本を見た地図としています」。また、「見慣れた世界地図を回転させたユニークな発想の地図です」。富山が対岸諸国に向けた交流拠点として地理的に適している点をアピールするため、地図の南北を逆転させるアイデアを発想したとのこと。

発想の転換とはよく言いますが、南北逆さにしただけで見え方がまるで変わってしまうから驚きです。見慣れた地図だと日本列島と大陸はかなり離れていて島国に見えていますが、この地図だと日本列島と大陸は連なり、日本海は大きな湖に見えるぐらいです。

逆に大陸側から見れば日本列島、沖縄諸島、台湾でふたをされたような状態になっていて、外洋に出難いように見えます。中国やロシアが尖閣諸島、北方領土に執着するのが分かるような気がします。資源の調達のためもありますが、広大な領土を持っている両国でもあの位置に領土があるかないかでは大きな違いになるでしょう。

中国政府が尖閣諸島に関して独自の領土としての主張を始めたのは、東シナ海に石油埋蔵の可能性があると指摘があった1970年代以降です。

また、韓国による竹島の占拠は1954年以来永年に亘り行われ、警備隊員が常駐しています。

対岸諸国との交流拠点作りを目的に作られた「逆さ地図」の紹介の記事だったのですが、ついつい領土問題について考えさせられてしまいました。

先の衆議院選挙の政権公約で「中国・韓国・ロシアとの関係を改善する」、「わが国の主権と領土・領海を断固として守る」と訴えた自民党が圧勝し、安倍政権が発足しました。その手腕に期待します。

「環日本海・東アジア諸国図」は、富山県民会館内の富山県刊行物センターで1枚300円（税込み・送料別）で販売中です。興味のある方は、同センターへ連絡してみてください。（TEL.076-432-3111）

編集委員 柴野 恒夫



環日本海・東アジア諸国図
この地図は富山県が作成した地図を転載したものである。
（平24情使第238号）

〈編集委員会〉

編集委員長 門前 昌志（阪神化成工業株）

編集委員 喜多 進（株）大樹

◆ 奥村三七太（三光合成株）

◆ 瀬川 雅靖（株）タカギセイコー

◆ 柴野 恒夫（株）リッチェル

編集後記

平成24年度は当工業会の創立50周年にあたり、記念式典・祝賀会の慶事開催に記念誌の編集と、まさに多忙を極めた。この壮大な記念事業のあらましをまとめ、この会報に掲載できた巡り合せに感慨深いものを感じる。また記念事業の企画準備中に当工業会が団体として富山県功労表彰授彰が決定し、晴れて受賞できたことは二重の慶びとなった。

特に記念誌編集を進めていると、創立時代の過酷な環境の中で当工業会の基盤づくりに絶大なご尽力下さった先人の偉業が、言葉に表せないほどすごいものであったことを、改めて感じた。この意味で、団体として富山県功労表彰を受賞できたことが、先人の偉業への御恩返しになれば幸いと思う。

そして創立時代から50年の長い歴史を汲み取る情報源として、特に「記念誌」と「会報」の記録の大切さに改めて気づいた。50年の歴史を繋ぐのも、このような文書の中のひとつの文字、1行、1枚の紙面の積み重ねである。特に会報は発行部数も多く、会員の隅々までご高読いただけることを願う情報誌でもあるため、これから創立100周年に向けて、絶え間なく洗練を重ねて行きたい。

平成24年の年末には国内が激動と言える変化が起きた。このような時の流れ、変化を「会報」に載せて、未来の成長エネルギーにしていれば幸いである。事務局 岡田（記）

とやま県プラ

富山県プラスチック工業会

（富山技術交流センター内）
〒930-0866 富山市高田529番地
TEL (076) 442-0309 FAX (076) 442-0310
URL <http://www.kenpla.jp> E-mail info@kenpla.jp

とやま県プラ



新湊大橋

CONTENTS

- 2 会長メッセージ
- 3 富山県功労表彰受賞
- 4 通常総会
- 5 下期理事会・視察会
- 6 創立50周年記念事業
- 12 トップインタビュー
- 14 シリーズ海外経済・世情
- 18 技術委員会レポート
- 22 総務委員会レポート
- 24 各種技能検定
- 25 研修講習事業報告
- 27 会員広場
- 28 会員企業による景況調査
- 30 プラスチック関連データ
- 32 共創

富山県プラスチック工業会

2013.1 No.31

新年に寄せて

新年あけましておめでとうございます。

会員の皆様におかれましては、良き新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。

昨年を振り返りますと、国内は復興需要がありまたエコカー補助金の効果なども加わり、比較的堅調に推移しましたが、夏場以降、世界的な景気減速により特に欧州や中国向け輸出の減少、同補助金の終了により減速し停滞しました。12月16日の衆議院選挙により新政権が誕生し、強い経済を取り戻すために財政・金融政策を総動員して景気回復を目指す方向が打ち出されています。年末の株式市場の勢いを見ている限りでは、旧政権の失政を挽回し、経済再生を果たしてくれることの期待が感じられます。

海外では、チャイナリスクが顕在化した年でありました。国交回復40周年の記念すべき年になるはずが、尖閣問題の発生は日中関係を根底から覆してあります。政治軍事の緊張関係は長引くことを覚悟しなければなりません。

昨年末に中国を視察した際の状況は、地方の政府関係者からも、現地パートナーからも、今回の外交関係の緊張については、こうした政治面の問題はあっても、経済に影響させないで今までの交流を続けたいというものであります。

それだけ、日本製品へ憧れ、日本の礼儀正しさ、様々な日本のシステムへの畏敬の念が薄れていないことを証明しているのではない

富山県プラスチック工業会
会長

笠井千秋



かと思えます。事件から3か月が経過し、日中共に新政権が誕生し、雪解けを期待する報道もありました。また12月20日ごろに大連開発区の入り口に各国の旗に交じって、今まで降ろされていた日本の国旗が掲揚されており少し経済の面では、水ぬるむような状況がやってきているような気がいたしました。すでに10月に半以下に落ち込んだ日本車の販売は11月には下げ止まり、足元は上向いているとの情報もあります。

今年は「みずのとみ、癸巳」過去の歴史をみるといずれも大転換の前夜であったわけで、60年周期の30年目にあたり前世代の体質がひっ迫して限界に達する中間点であり、今後の30年の出発点でもあるとのこと。

従来の状況が終り、新たな方向に進み始める年という言い方もされております。

確かに、全世界の主要国で政権が交代し、それぞれの課題に立ち向かって新しい解決の方向を打ち出すことに期待したいものです。

当工業会といたしましては、昨年の創立50周年を経て、これまで支えていただいた会員各位はじめ関係者の皆様に心から感謝を申し上げますと同時に、次なる飛躍をめざし業界の発展に全力で取り組む所存であります。

皆様にとって、今年が実りある年なることを祈念し、変わらぬご愛顧をお願いして、年頭の挨拶といたします。今年もよろしくお願いたします。

富山県功労表彰受賞

平成24年11月3日

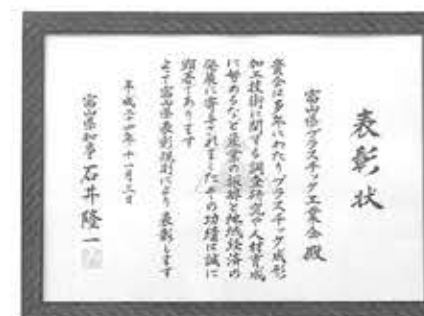
富山県プラスチック工業会創立50周年記念の期に、団体として富山県功労表彰を受賞致しましたのでここに表彰状と記念品の盾をご披露し、50年の礎を築いていただいた偉大な先人に最大の敬意と感謝の意を表して、この慶事を末永く遺し伝えます。

功績概要は次のとおりです。

「昭和37年以來50年間にわたり、プラスチック成形加工技術に関する調査研究や人材育成に努めるなど、産業の振興と地域経済の発展に寄与している」

11月6日に県庁にて表彰式が執り行なわれ、笠井会長と齊藤副会長が出席致しました。

その受賞の様子も併せてご紹介致します。



会長 笠井千秋(左) 副会長 齊藤 恵三(右)



富山県知事 石井 隆一様(左)

平成24年度 通常総会開催



総会・笠井会長挨拶

通常総会審議

平成24年度通常総会が5月30日(水)午後3時30分から富山第一ホテルにおいて開催された。はじめに笠井会長より開会の挨拶のあと、議長を笠井会長に選出して議案審議に入った。

議案は第1号議案「平成23年度事業報告の件」

第2号議案「平成23年度収支決算報告・監査報告の件」

第3号議案「平成24年度事業計画(案)の件」

第4号議案「平成24年度収支予算(案)の件」

第5号議案「創立50周年記念事業の件」

を諮った結果、原案通り可決承認され、総会審議が終了した。

平成24年度は創立50周年の記念期として、10月26日(金)に記念式典・祝賀会の挙行を計画し、併せて富山大学との記念懇談会の開催(7/9)および記念誌の編集発行に取り組む。通常事業と記念事業を並行で推進するため、両方の事業を充実できるように注意深く精力的に取り組む。

総会后、記念講演開催

北陸環日本海経済交流促進協議会(北陸AJEC)調査部長 杉山氏より、「中小企業は独り立ちしよう!」と題して記念講演があり、講師ご自身の生い立ちから北陸AJECの事業を楽しく織り交ぜてご講演をいただき、富山県を中心に北陸エリアの恵まれたビジネス環境を専門の目から解りやすくご説明された。国内に残るにしても海外に進出するにしても様々な苦難が待ち受ける時代に、北陸AJECをはじめ海外進出の支援機関が充実したネットワークを展開していることを紹介された。



杉山氏講演

総会后、懇親会開催

引き続き懇親会が開催され、60名余りの会員や関係者が参加した。はじめに笠井会長の開会挨拶があり、富山県商工労働部 荒木部長の乾杯ご発声のあと、歓談に移り各円卓を囲み賑々しく相互親睦を深め合う中、齊藤副会長が中締めをして盛会裡にお開きとなった。



懇親会

平成24年度下期理事会開催・コーセル(株)本社工場視察

■ 下期理事会

9月10日(月)13時30分より富山第一ホテルにて開催し、笠井会長はじめ役員22名が出席して上期事業報告、上期収支決算報告、下期事業計画等の審議を行い、いずれも了承された。

その他事項として下記、了承されました。

* 創立50周年記念誌の発行予定時期を記念式典開催日としてきたものを、12月初旬から中旬に延期変更する。(記事収集編集に想定を超える時間・労力が必要なため)

報告事項として、

* 創立50周年記念事業実施のために必要な資金の集金状況を報告した。

* 創立50周年記念誌の校正途中の紙面を一式、回覧紹介報告した。

■ コーセル(株)本社工場 視察

同日午前、富山県を代表する優良企業のコーセル(株)本社工場を視察した。コーセル(株)はQCサークル活動が全国的にも著名な成果を上げており、品質至上を核にして社会の信頼に応える経営理念に基づき、総合的品質管理(TQM)の思想と手法を駆使することにより、QC活動を重視した人材育成と体質改善を経営の柱とする神髄を学ぶことができた。工場見学ではものづくりの合理化の様子が解り易く、品質管理が高度に徹底している仕組みが良く理解できた。



コーセル(株)本社工場視察



福村社長より会社説明

創造力と先進性を、豊かな文明のために

株式会社 碓井製作所

〒930-0357 中新川郡上市町正印3の1
TEL (076) 472-4605
FAX (076) 472-2908

人と技術を結ぶパートナー

金森産業株式会社

本社 〒933-8558 高岡市昭和町1-4-1
TEL (0766) 25-0123(代) FAX (0766) 26-5663
支店・営業所 東京・大阪・富山・金沢・福井
<http://www.kanamorisangyo.co.jp/>

創立50周年 産学記念懇談会

富山県プラスチック工業会創立50周年記念の節目にあたり、その記念事業のひとつとして、従前から取り組んで来た産学連携懇談会を、『創立50周年 産学記念懇談会』として、平成24(2012)年7月9日に開催致しました。この記念懇談会において、主に創立30周年以降現代に至る期間に、当工業会が乗り越えて来た時代を振り返り、これからの発展成長に向けて取り組むべき課題を論じました。その概要を会報にご紹介ご報告致します。

開催会場は次の2カ所です。

第一部及び第二部 富山大学地域連携推進機構内会議室

第三部 とやま自遊館

次に進行次第をご紹介します。

第一部 産学研究開発取り組みテーマ・状況の紹介 14:00～15:20

- 1) 石原工学部長のご挨拶
- 2) 笠井会長のご挨拶
- 3) 参加者の自己紹介
- 4) 富山大学地域連携推進機構の活動紹介
- 5) 「学」の研究取り組みテーマの紹介(2題)
- 6) 「産」の研究取り組みテーマの紹介(1題)

第二部 『産学特別懇談会』 15:30～17:00

- 1) 平成初期～直近(リーマンショック以前)までの激変から「産・学」が受けた影響等
- 2) 直近(リーマンショック)～現在までの激変から「産・学」が受けた影響等
- 3) 未来にかけける期待・遺したいことから

第三部 情報交換会 18:00～19:30

I. 本論：産学研究開発取り組みテーマ・状況の紹介

この記念懇談会の開会にあたり、石原工学部長と当工業会の笠井会長よりご挨拶を頂きまし



石原工学部長ご挨拶



笠井会長ご挨拶

た。続いて参加者全員の自己紹介を行いました。

次に、高辻部門長と千田TLO長より地域連携機構の紹介、北野教授と小野准教授による大学研究テーマ2題



高辻先生ご説明

のご紹介、そして当工業会を代表して榎タカギセイコーの山崎鉄平氏より、

*平成23年度富山県新世紀産業機構「高度技術実用化支援事業」の取り組み経過報告
 <SUSとエラストマーの接合>

の紹介報告を行い、活発な質疑応答が展開されました。

特に北野経営協議会委員よりのアドバイスとして、最高の賢者に相談をしてその考え方に触れ、最高の取り組みをすることの大切さと、優れた仮説を立てるための重要性を説かれました。優れた仮説を立てるためには優れた知識と知恵が必要であり、この仮説の立て方により、研究の質と成果の大きさが向上することを力説されました。

II. 本論：産学特別懇談会

産学記念懇談会の第二部として、当工業会は創立30周年の記念事業を実施していることから、その後概ね20年間を経て創立50周年を迎えた時代を振り返り、学ぶべき課題を掘り起こし

て次世代の成長興隆に繋げることをねらいとしました。

このため、下記の課題を念頭に置いてこの特別懇談会を討論会形式により進行了しました。

- 1) 平成初期～直近(リーマンショック以前)までの激変から「産・学」が受けた影響等
- 2) 直近(リーマンショック)～現在までの激変から「産・学」が受けた影響等
- 3) 未来にかけける期待・遺したいことから

メインの司会進行役は富山県プラスチック工業会技術委員会委員長の柳本氏があたり、両側からコーディネータとして谷野所長と、富山大学の高辻産学連携部門長にサポートして頂きました。



討論の冒頭にあたり、切り口を設定すると、概ね20年前の時代を振り返れば、個人レベルでネットの普及が進み、IT産業が発展しました。この変化により、それまで重要なツールである金型はブラックボックスだったのが、その扉がこじ開けられた感があります。まさにCAD/CAMの時代の幕開けになりました。このあたり

を話題の起点にして論議が展開されました。

大学も当工業会も危機の認識や将来進むべき道筋等について、十分な共感・共通認識ができることを改めて確認できたため、たいへん有意義な記念懇談会でした。

第二部の『産学特別懇談会』の熱気をそのまま持って、第三部の『情報交換会』が開催されました。この席では胸襟を開いたフランクな討論で盛り上りました。

また、特筆しておきたいことがあります。それは、第一部で「産」の研究テーマ発表をした山崎鉄平氏は、今回参集された方々の中でただ一人の20代です。その若い山崎鉄平氏に、お集まりいただいた方々から“鉄平”、“鉄平”と、アイドル並みの熱い声をたくさんかけていただきました。それらの貴重なお声には、これからの未来を背負って行く、逞しい若者世代への期待の大きさが凝縮されているものと受け止めました。山崎鉄平氏は、それらのお声に晴れやかな笑顔で対応していたのが印象的で、心強く感じました。

山崎鉄平氏を含む若い世代の無限の成長と、「学」ならびに当工業会会員企業のさらなる発展、そして今後の産学連携の新しい取り組みを期待します。



創立50周年 記念式典・祝賀会

今期は富山県プラスチック工業会創立50周年記念期であり、その最大の行事である『記念式典・祝賀会』の概要をご紹介報告致します。



秋晴れの平成24年(2012)10月26日(金)、富山第一ホテルにて午後3時30分より記念式典が開催されました。ご参会いただいた方々は第一部の記念式典で総勢107名、第二部の記念祝賀会で総勢92名の盛大な会となりました。

この晴れの式典・祝賀会に、公官庁・大学・諸機関団体から22名のご臨席を賜りました。

厳かな雰囲気でご工業会笠井会長より第一部記念式典開会のご挨拶が始まり、創立時の出来事や基盤づくりの振り返りを経て、ご尽力頂いた方々への深い感謝の気持ちを表されました。また、失われた20年をはじめ、3・11の大震災やタイの大洪水、直近では近隣国との政治的緊張などの困難を乗り越え、絶え間ない成長を続けるための施策、特に人材育成、教育訓練、技能検定、さらには技術交流等の積極的な展開を進めるよう論説されました。そして、今回の50周年における特別功労表彰・在位功労表彰・優良従業員表彰を通じて、長年の業界発展に尽力された皆様方に感謝しつつ、当工業会としてもこれを契機に更なる未来の発展につなげていく覚悟を述べられました。

次に、ご来臨頂いた各界の代表5氏から創立50周年のご祝辞を頂戴致しました。その方々をご紹介します。

*富山県知事 石井 隆一様
ご祝辞代読 商工労働部部長 荒木 勝様

*富山市長 森 雅志様

*高岡市長 高橋 正樹様

ご祝辞代読 副市長 林 時彦様

*国立大学法人富山大学 富山大学長 遠藤 俊郎様

*社団法人富山県機電工業会 会長 野村 正也様
続いて、創立50周年記念式典にて特別功労・在位功労・優良従業員の三種類の表彰を行いました。ご芳名を読み上げられ、登壇して受賞された方々の表情は眩しいほど輝いていました。

全ての表彰が終了したところで、受賞者を代表して株リッチェル名誉会長 渡邊信安様にご登壇のうえ、謝辞を述べて頂きました。今は亡きご同志ご同胞のご活躍にも思いを馳せる、まさに創立50周年の歴史が凝縮するような深いお言葉でした。

厳粛な中、第一部記念式典が滞りなく進み、閉会を迎えました。当工業会延澤副会長より、多くのご祝辞や励まし等々の御礼を込めて第一部閉会のご挨拶をされました。

記念式典に続いて、第二部記念祝賀会を開会しました。開催にあたり、会場入り口にて当工業会会長、副会長が金屏風を背に立ち並び、迎賓を致しました。

ご参会の皆様全員が着席されるとともに、会場内の照明が静かに落とされると同時に、会場内に控えていた『源多良太鼓保存会』による勇壮で力強い太鼓の音が響き渡り、まさに当工業会の力強い成長発展を期する調べになりました。

第二部記念祝賀会開会にあたり、当工業会笠井会長よりご挨拶がありました。そのお言葉には、第一部でご来賓より頂戴したご祝辞を引用して、当工業会の今後の成長発展に関連する課題と期待等を述べられました。

続いて、ご来臨頂いた各界の代表2氏からご祝辞を頂戴致しましたので、そのお二方様をご紹介します。

*富山県工業技術センター所長 榎本 祐嗣様

*富山県立大学学長 前澤 邦彦様

(乾杯のご発声を兼ねて)

祝賀会が進み熱気が高まるころ、壇上の富山の銘酒、「立山」と「満寿泉」の樽を囲んで鏡開きを行いました。



これより祝宴が始まり、ご参会頂いた方々が和やかに談笑をされました。

宴も一息ついたころ、当工業会理事の株日本成工代表取締役社長 米田忠磨氏のご尽力で、藤本むつみ民謡会社中の皆様による民謡の調べの準備が整いました。会主で三味線の名手；藤本秀登史氏、都山流尺八の大師範；才川慎山氏、そして紅一点で民謡の全国大会優勝者；石川万里衣さん、そしてご本人も民謡の公認教授の資格を持つ米田忠磨氏が準備万端で入場登壇され、割れんばかりの拍手に迎えられました。これから約20分間、アンコールにも応えて名曲を浪々と唄われました。



楽しく充実した記念式典・祝賀会も、いよいよ閉会の時が近づいて参りました。中締めのご



発声を、
*社団法人中部日本プラスチック製品工業協会 会長 後藤 敏一郎様
にお願ひし、愛知で行う「一本締め」(万歳三唱)を頂戴致しました。

名残惜しい雰囲気にも包まれつついよいよ閉会にあたり、富山県プラスチック工業会齊藤副会長より閉会のご挨拶がありました。リラックスしたお話の展開に笑顔が交じり、短いお話の中に創立50周年の歴史を伺える貴重な話題が織り込まれていました。そして皆様のご支援に深い感謝の意を表しながら、新しいプラスチックの誕生を楽しみに勉強を続けるとの信念をご披露されました。

これにて厳粛かつ盛大な創立50周年記念式典・祝賀会が閉会となりました。



平成24年10月26日 富山県プラスチック工業会創立50周年記念表彰

特別功労表彰



わたなべ のぶやす
波邊 信安
株式会社リッチェル 名誉会長

当工業会の会長、副会長、理事として44年の永きにわたり、事業の運営に尽力され、業界の発展に功績大なるものがあつた。



くろだ やすお
黒田 康郎
黒田化学産業株式会社 代表取締役会長

当工業会の常任理事、理事として43年の永きにわたり、事業の運営に尽力され、業界の発展に功績大なるものがあつた。



たかはし まさお
高橋 榮
高陵プラスチック工業株式会社 取締役

当工業会の副会長、理事として44年の永きにわたり、事業の運営に尽力され、業界の発展に功績大なるものがあつた。



さいとう けいいち
齊藤 恵三
株式会社齊藤製作所 代表取締役社長

当工業会の副会長として34年の永きにわたり、事業の運営に尽力され、業界の発展に功績大なるものがあつた。



たかた まこと
高田 眞
阪神化成工業株式会社 代表取締役会長

当工業会の副会長、常任理事、理事、監査役として28年の永きにわたり、事業の運営に尽力され、業界の発展に功績大なるものがあつた。



しばの けんじ
柴野 敏一
元株式会社リッチェル 顧問

当工業会の専務理事として21年の永きにわたり、事業の運営に尽力され、業界の発展に功績大なるものがあつた。



うめざき じゅん
梅崎 潤
三光合成株式会社 代表取締役会長

当工業会の副会長として20年の永きにわたり、事業の運営に尽力され、業界の発展に功績大なるものがあつた。

在位功労表彰

あさや かつまさ 浅谷 克昌 丸喜産業株式会社	当工業会厚生委員、総務委員及び技術委員として18年間にわたり、事業の運営に尽力され、工業会の発展に貢献大なるものがあつた。	ふかやま せいいちろう 深山 誠一郎 株式会社リッチェル	当工業会技術委員として11年間にわたり、会員企業の技術向上と、技能者の育成に貢献大なるものがあつた。
もんぜん まさし 門前 昌志 阪神化成工業株式会社	当工業会総務委員として16年間にわたり、会員企業の経営改善、教育訓練に貢献大なるものがあつた。	ささき けんじ 佐々木 祐二 株式会社ヨックス	当工業会厚生委員、総務委員として11年間にわたり、事業の運営に尽力され、工業会の発展に貢献大なるものがあつた。
きた すすむ 喜多 進 株式会社大樹	当工業会総務委員として16年間にわたり、会員企業の経営改善、教育訓練に貢献大なるものがあつた。	たなか ひろし 田中 博 株式会社タカギセイコー	当工業会検定委員として13年間にわたり、業界の技術向上に尽力され、工業会の発展に功績大なるものがあつた。
さいとう としあ 齊藤 俊雄 株式会社齊藤製作所	当工業会総務委員として16年間にわたり、会員企業の経営改善、教育訓練に貢献大なるものがあつた。	まつもと きよのり 松本 清則 株式会社リッチェル	当工業会検定委員として13年間にわたり、業界の技術向上に尽力され、工業会の発展に功績大なるものがあつた。
しよや ただもり 渋谷 忠盛 三晶MEC株式会社	当工業会技術委員として16年間にわたり、会員企業の技術向上と、技能者の育成に貢献大なるものがあつた。	まへだ たつらう 前田 達朗 阪神化成工業株式会社	当工業会検定委員として10年間にわたり、業界の技術向上に尽力され、工業会の発展に功績大なるものがあつた。
さわた たつや 沢田 達也 株式会社ミユキ化成	当工業会厚生委員、総務委員として15年間にわたり、事業の運営に尽力され、工業会の発展に貢献大なるものがあつた。	すずき まもる 鈴木 守 株式会社ミユキ化成	当工業会検定委員として9年間にわたり、業界の技術向上に尽力され、工業会の発展に功績大なるものがあつた。
まなた きよし 真田 清 丸喜産業株式会社	当工業会技術委員として14年間にわたり、会員企業の技術向上と、技能者の育成に貢献大なるものがあつた。	くろふら つかし 黒淵 博志 阪神化成工業株式会社	当工業会検定委員として9年間にわたり、業界の技術向上に尽力され、工業会の発展に功績大なるものがあつた。
くりた なおき 栗田 直樹 北酸株式会社	当工業会厚生委員、総務委員として12年間にわたり、事業の運営に尽力され、工業会の発展に貢献大なるものがあつた。		



～夢の軌跡～

時代のその先を見つめ、プラスチックの新しい価値、新しい機能を創造する

株式会社 齊藤製作所
代表取締役社長 齊藤 恵三氏



コルク栓の製造販売を創業した父の跡を継いで、プラスチックが国産化されるやいなや、その優れた特性に着目して医薬品容器のプラスチックの製造に取り組んだ。積極的に創意工夫を重ねながらプラスチックの可能性に挑み続け、「魅力ある人、魅力ある会社」として成長を続けて平成22年（2010）に50周年を迎えた。齊藤社長はプラスチックに憧憬が深く、様々な語りの中で、いつもその魅力と期待を熱き青年のように繰り広げてくれる。多忙なスケジュールを空けて頂き、当工業会創立50周年記念に関わる話題も併せて伺うことができた。

【インタビューは

阪神化成工業株式会社 経営企画室

阪神グループ総務経理部部長 門前昌志氏】

創業の経緯について：材料の進歩が社業を進化させる

父、齊藤守三氏（故人）が昭和21年（1946）5月に、氷見市仏生寺で薬品用ガラス瓶のコルク栓（天然木）を製造する小さな工場を創業した。製造機械を大阪で造ってスタートしたが、当時2社がある栓メーカーのうち、1社しか買ってくれなかった。

昭和30年代初期にポリエチレン樹脂（PE）が国産化され、国内に出回り始めた。昭和32年に父守三氏はいち早くこのプラスチック材料に注目し、PEでポリ栓を造った。この機転はまさに父守三氏の先見の明であった。守三氏は常々、若き齊藤恵三氏（現社長）にプラスチックを勉強せよ！と言いつづけた。

昭和35年3月には医薬品容器である「目薬」の容器製造・販売に取り組んだ。競合他社が容器材料の弱点

で様々な支障をきたしているのを横目に見ながら、初めて輸入された高密度ポリエチレン（HDPE）を採用して、競合他社を抜き去ることができた。プラスチックの材料特性を良く理解していた当時の齊藤恵三氏は、HDPEを業界で初めて取り入れた。この転機が実質的に社業の「第二の創立」となった。

目薬容器に続いて、口中清涼剤容器の製造販売にも取り組んだ。そして目薬容器に関しても、次々と市販される新しいプラスチックの特性を活かし、新しい成形法／成形システムも率先して取り入れて製品開発を繰り返して、医薬品容器メーカーとしてトップブランドと信頼を確立した。

創業の経緯について：新しい分野への進出

製薬業界がある出来事で落ち込んで売り上げが激減した時期があり、昭和40年（1965）ごろより、工業分野の製品開発に乗り出した。昭和41年（1966）7月に、スチューベ射出成形機を設置した。最初に取り組んだのは県内のガスメーター製造企業で使われていた部品で、真鍮製の翼軸ボックスをポリアセタールで樹脂化するテーマであった。これが見事成功し、工業分野進出第一号となった。以来、精密部品樹脂化のテーマに次々とチャレンジして事業の柱に育て上げた。

創業の経緯について：拡大成長

その後、工場の移転統合を重ねて平成6年2月に現在の大沢野工場に移転統合した。この移転により、最新鋭の成形機械・装置等の新たな導入はもとより、設計システムや情報管理システムなども最新鋭の環境にした。すなわち、「IFA工場」（インテリジェント・フ

レキシブル・オートメーション）の完成である。

思い起こせば平成8年（1996）、当工業会の会報編集のため門前インタビューが訪問した時に、なんと、隔離された喫煙ルームが常設常用されていた。その取り組みの早さに驚いた。これがこの新工場をして齊藤社長自ら「従業員のための工場」と言われる所以と納得した。

この新鋭工場は平成8年（1996）フランスの雑誌「L'USINE NOUVELLE」から取材を受け、その記事がこの雑誌に賛辞を織り込んで掲載された。

富山県プラスチック工業会

創立50周年にちなむ思い出

もともと技術畑出身でないのに技術委員長を拝命したが、解らないことばかりであった。そこでヨーロッパやアメリカの視察を企画して、当工業会の団体で出かけることにより世の中を知るチャンスを積極的に設けた。百聞は一見にしかず、である。業界視察はたいへん有意義であったが、食事道中の会話も楽しかった。当工業会の経営者はたいへん仲が良い。特筆ものと思う。

一度オーストラリア・ニュージーランドを訪問視察したことがあった。その時には出かけた当工業会の団体が10人ずつ3組に分かれ、一般家庭に数時間訪問してプラスチックが日々の生活の中でどのように使われているか、生活の様子を織り交ぜて調べることができた。

この企画自体が型やぶれの的であったが、当時の渡邊会長の発想のすごさ、情熱の大きさに押されて実現できた。受け入れ家庭は予め選ばれた人と思えたが、遠慮無用のように家庭の隅々まで見せてくれた。しかも、美味しい手料理までご馳走になった。

まさに百聞は一見にしかず！であり、目からうろこであった。当工業会の団体としての利点を活用して、勉強や視察ができるメリットはいつの時代になっても変わらない。今後も海外視察や研修を企画実施して欲しい。その土地に行った経験や見聞が、国内で生活している中でも感動を倍増してくれる。

心掛けていること

*師と仰ぎ、尊敬する人を持つ

その方は阪神化成工業株式会社 代表取締役会長 高田眞氏である。高田会長の経営采配をずっと参考にさせて頂いた。たいへん助かった。

*2番煎じに徹する

ライバル企業と壮絶な戦いを繰り広げて来たが、二番煎じに徹した。

従業員に伝えたいこと

*医薬品業界のGNP基準値は厳しくなる。基準をクリアするために必要な工場消耗に架かる費用は増え続ける。反面、単価は上がらない。この状況下での競争に覚悟をして勝ち抜いて欲しい。

*勉強の機会があれば積極的に参加して欲しい。特に

当工業会開催の研修には進んで参加して欲しい。若い人は理解吸収が早い。



会社概要

社名	株式会社 齊藤製作所		
本社工場	富山県富山市下大久保61		
創業	1945年 3月 15日		
資本金	2,000万円		
役員	代表取締役社長	齊藤 恵三	
	常務取締役	齊藤 俊雄	
	取締役事業部長	齊藤 行男	
従業員数	60名		
業務内容	プラスチックによる医薬品容器、精密工業部品、生活用品の製造販売各種包装資材販売		
売上高	8億円		

プロフィール

齊藤 恵三 さいとう よしみつ
1940年（昭和15）10月30日生 生まれは大阪
1959年（昭和34）富山商業高等学校を卒業 齊藤コルク製作所入社
1978年（昭和53）代表取締役社長に就任。
2001年（平成13）11月 富山県知事表彰（産業経済功労）
2004年（平成16）春 黄綬褒章受賞
2005年（平成17）11月 富山市長表彰（産業経済功労）

実は、手塚治虫や藤子不二雄のアトムやドラえもんが好き。どちらも共通するのは未来、科学。好きな言葉は「挑戦」。再三の大病にも「火の鳥」（不死鳥）のごとく打ち勝ち、現在も毎日会社で陣頭指揮に当たる。

北日本ビニル株式会社
本社・工場 〒930-0862 富山市有沢162番地 TEL(076)421-7713(代) FAX(076)491-4567
有沢工場 〒930-0862 富山市有沢15番地 TEL(076)425-7625
KITANIHON

営業品目
熱硬化性樹脂成形材料
熱可塑性樹脂成形材料
各種成形機、合理化機器
黒田化学産業株式会社
本社 〒930-0069 富山市旅籠町4番2号 TEL(076)424-3291
新潟営業所 〒959-1288 新潟県燕市燕1233-4 TEL(0256)62-5105

ISO 14001 JACOB JAB
高陵プラスチック工業株式会社
〒933-0824 高岡市西藤平蔵字内川原1312
TEL(0766)63-5656(代) FAX(0766)63-5658

SAITO
Plastics Molding / Package & Parts
株式会社 齊藤製作所
富山県富山市下大久保61 〒939-2251
☎(076)468-2727 FAX(076)468-3911

インドネシアの近況 (2012年夏)

PT. Sojitz Indonesia
取締役社長 神保俊二氏

<ビジネス環境>

インドネシアの昨今は、戦後の日本人の誰もが経験したであろう経済成長の高揚感を実感できる、まさに右肩上がりブイブイのまっただ中にある国です。「ブイブイ」とは、「ガンガン」「グングン」最上級形容語とご理解ください。

人口は、約2億4千万人で世界第4位。(50%が30歳以下 約40%は20歳未満。) ASEANの中で最大の人口を有し10カ国の合計6億のうちの約40%に相当し、東南アジアにおいて圧倒的な経済規模を誇りASEAN10カ国GDP合計の36%を占めASEANでNo1の規模です。(アジアでは、日本、中国、インド、韓国に次ぎ5位)

就労人口は、若く・豊富な労働力を有していることより、チャイナ プラス ワンという位置づけで、外資の投資が中国からインドネシアにシフトする傾向にあります。日本からは、自動車産業を中心とする生産設備拡張、及び円高の影響で製造業の進出ラッシュが続いており、最近では複数の信用金庫が当地地場銀行と業務提携を結び、人材も派遣し中小企業の進出の支援体制を整えています。

一人当たりのGDPは、2010年に3,000ドルを突破(日本でいうと1973年頃と同じレベル)、11年度は3,543ドルに達し、2014年には5,000ドルに達する見込みで、首都ジャカルタ近郊のGDPは既に8,000ドルに達しています。2008年で中間所得層の人口は全体の3割に相当する約8,000万人(フィリピン、ベトナムの人口に匹敵)を既に突破、今後も高い経済成長を背景に、購買力の高い中間所得層の人口拡大が見込まれる有望市場です。富裕層については、昨年、前年比2割増の3,600万人に増えています。市場調査会社ニールセンが発表した2012年4月から6月の消費者信頼感調査(世界56か国、28,000人が調査対象)の結果によれば信頼感指数は120で、世界最高の数値となっています。向こう一年間の見通しで、「家計は安心」との回答は、82%という高い数値となり今後、中国、インドに続く世界の成長を支える拠点となることが見込まれています。

インドネシアと言えば、バリ島、ポロブドゥールが観光名所として有名ですが、経済、観光以外でこの国に来て驚くのは、妊婦さんがやたらに多いことです。当国は、国民の約9割が大家族主義のイスラム教信者であることも影響しているのかと思います。日本の出生率が1.3と低いのと対照的で、当国の出生率は2.1で

人口(現在約2億4千万人)が増え続けている国です。職場はもちろん、街を歩けば、必ず妊婦さんを見かけます。15-64歳までの人口層を、所得層、消費層という位置づけで「生産年齢人口」、それ以外の人口を「従属人口」と呼び、一般的に「生産年齢人口」が「従属人口」の倍以上ある時期を「人口ボーナス期」と呼び、高い経済成長が期待できるとされています。インドネシアは、現在、正に「人口ボーナス期」のさなかにあり2020年代半ばまで続く見込みとなっています。2010年代にpeak outするとみられているタイ、中国と比較すると、当国の経済成長の持続性は高いポテンシャルを有していると言え、足元の高度経済成長の源となっています。中国、タイの様に輸出依存型でなく、当国は、輸入、輸出のバランスが取れている内需型で、今後中間所得層が増加する一方ですので、インドネシアは、アジア及び世界経済をリードする国の一つになることは間違いないと思われます。私もいろいろな外国に住んだことがありますが、こんなに親的な国は他には見たことがなく、日本企業が海外進出するには最適な国だと思います。日本の自動車、二輪車の国内販売シェアは、日本国内のそれよりも高いという現状を見ればその優位性、高い親密度がご理解いただけるのではないかと思います。

<生活環境>

「鶏が先か、卵が先か」インドネシアに関与される方は誰もがこの言葉を思い浮かべると思います。経済の成長に伴い、ヒト、モノが大量に夥しく移動、輸送されており、その市場欲求はまさしく「ブイブイ」の増加傾向にありながらもインフラがその欲求に追い付いてない。特にジャカルタの道路はいつでもどこでも渋滞、2012年度の自動車販売台数が100万台に到達しようという状況で、現在すでにジャカルタで登録されている自動車の平均表面積合計とジャカルタの道路の面積がほぼ同じ、それはすべての自動車が駐車場から道に出ると「ジャカルタ中のすべての道路が動かなくなる、グリッドロック」の可能性があるという状況、さすがにそれは数学的可能性にすぎませんがその渋滞のすさまじさはイメージしていただければと思います。そしてそれだけではありません。自動車の約8倍が毎年市場に流通している二輪車の大群が「チキチキマシン猛レース」の如く、道の左端、道の右端(これが危ない)、道の真ん中に縦横無二、時に二人乗り、三人乗り、四人乗りで走り回っているのです。そんな状

況でありながらもこの国には地下鉄が走っておりません。(地下鉄がないからそんな状況になるのか!) 鉄道はあるにはありますが「人間鈴なり命がけ」を覚悟しなければなりません。今度こそ、今後こそ、「地下鉄大計画」の実現を待ってやみません。また成長の波がジャカルタから地方都市へと派生している今こそ、都市から都市へと繋ぐ高速道路網も誰もが待ち望んでいると言えると思います。この現象はジャカルタ中心部を描いたものですが、地方都市へも広がりつつあります。とは言え地方都市は「チキチキ」状態ではまだありません。しかしインドネシア人には彼らしかない「タイム」があります。「チキチキ」な時でも場所でも「チキチキ」ではない時でも場所でも彼らの「タイム感」は一緒。それは「時間にルーズ」という言葉で形容されるものではなく「のんびり」でもありません。この「タイム感」こそインドネシアで生活するために、インドネシアで働くために身に着けなければならない感覚ではないでしょうか。経済は「チキチキ」ではなくとも成長できるものと驚くべき発見があります。



まさに鈴なり命がけ……。



ジャカルタ中心部の夜景

インドネシアに滞在された出張者は、皆インドネシアの事を「いいかげん」「適当」と表現される方が多くいらっしゃいます。確かに政治、経済、治安、衛生、その他もろもろ国の指標となるべきものが未整備、途上、インドネシア人と会う約束は±2時間はざら、日本人の価値観では理解できない事がたくさんあります。しかしインドネシア人は、この「あいまいさ」を不快と感じるのではなく、「快適」と感じているような気がします。あえてそうしているかのようなのです。そしてその独特な感覚があるからこそ老若男女、豊かな人も貧しい人もそれぞれに幸せに朗らかに心地よく暮らしており、それは世界でも誇れる魅力的な国なのではないかとも思うのです。

私は、インドネシアで生活をして「幸せに生きるとは何か」を見つめなおしています。



バスやタクシーを待っているのではありません。渋滞回避のためにつくられた3人以上乗車していないと通行できない道路の法律を「回避」する為、2人以下で道路に入りたい場合にこんなアルバイトが道路わきに……。



これはゴールデンウィークではありません。毎日なのです。

樹脂が持つ可能性を追求して、
新・快適を提案していきます。

建築用ガasket・硬質異形成品・射出成形品

三協化成株式会社

本社・工場/高岡市福岡町下向田3-1 TEL (0766) 64-4000(代)
http://www.sankyokasei.co.jp/

三光合成株式会社

SANKO GOSEI LTD.

〒939-1698 富山県南砺市土生新1200
1200 HABUSHIN NANTO-CITY TOYAMA 939-1698 JAPAN
TEL 0763-52-1000 FAX 0763-52-1925
http://www.sankogosei.co.jp/

インド最新レポート (ニューデリー編)

Sojitz India Private Limited
General manager functional Department
矢橋 良雅 氏

【国交樹立60周年】

2012年は日印国交樹立60周年の記念すべき年となり、各種の記念行事が1年間に亘り繰り広げられました。また、毎年交互に首相が相手国を訪問する慣行により、シン・インド首相が11月15日より訪日予定でしたが、衆議院解散による日本事情で延期されました。しかし、カンボジアでのアジア首脳会議で野田首相とシン首相の会談は実現しました。この様に、日本とインドは、戦略グローバル・パートナーシップの下で毎年、その関係は重ねられ、深化しています。経済面では、包括的経済連携協定を締結し、10年間掛けて特定品目が関税撤廃される為に、人口12億人の市場をバックとしたビジネスチャンスの創出が期待されます。

【日系企業の進出動向】

インドは東西に3000km、南北に3000kmに広がる大国であり、1ヶ所の拠点からインド全地域をカバーするのは困難です。また、インド全28州では、各々の州で言葉、文字も違い、英語だけが頼りとなっています。このような背景から、日系企業の2012年10月1日での進出状況は、924社で2011年より114社増加(14%増)ですが、拠点数は382拠点増の1,804拠点となり、既に進出した日系企業がインド内で展開を進めていることが分かります。JETROが誘致したニューデリーから西へ120km離れたニムラナ工業団地には、三井化学や三菱化学のPP樹脂コンパウンド拠点

の他35社以上が集まって事業を推進しており、工業団地は満杯となっています。

【工業用地獲得の困難さ】

インドは民主主義国家であり、土地も個人所有が認められています。その為に、相続で土地はとて細かく分けられ、また、その土地の大半は農地で、工業用地獲得には困難さが付きまといまいます。インドの大手企業であるタタ自動車が高価格車「ナノ」の製造拠点として300億円を注ぎ込んだ用地を、農民抗議行動で代替地へ移動せざる負えなくなった事でも示されています。結果として、ニムラナ工業団地の様に、インド北部の1ヶ所に日系企業が参集する状況となっています。JETROは西部のグジャラート州の工場団地にも日系企業用の工業団地として誘致を開始しました。グジャラート州は州全体が禁酒で、レストランでも酒は置いていません。大手ホテルに



インド・ニューデリーの官庁街



日印国交樹立60周年を記念しての日本人花火師による花火(於:ニューデリーインド門) 2012.12.7.



はチェックインカウンターの裏に鉄格子の金庫の中に酒を置いてあり、外国人はパスポートを示して購入し、ホテルの部屋で飲む事になります。しかし、この工業団地には飲酒可能な居住区を州政府が異例に認めており、州政府としても日系企業誘致に積極的であることが分かります。

【外資コンビニエンスストアの展開】

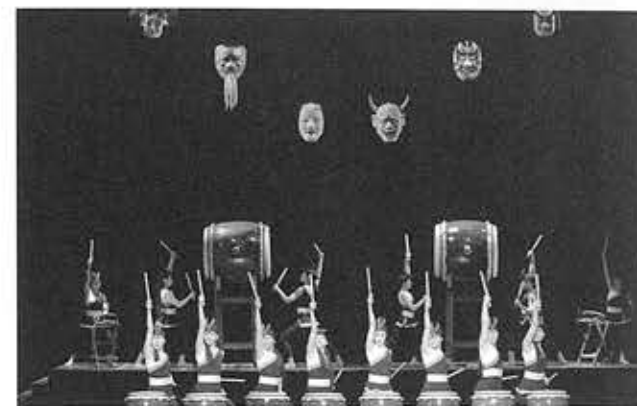
インドでの複数ブランド品の小売業には、国内業者の保護政策から外国資本に対して制限があり、コンビニエンスストアや総合家電販売業が発展していません。シン首相は景気昂揚策として、外資への開放策を掲げ、その第一弾として、複数ブランド小売業への外国直接投資(FDI)の解禁を国会で野党を捻じ伏せて決議しました。インドでは国会決議がされても、施行は州政府に委ねられるので、インド全域での施行には相当の時間が掛りますが、デリー政府は議会に関連法案を提出予定で、ウォルマートなどの外資大型小売店が設立されるのは、デリーがインドで一番早くなりそうです。中国でもそうであった様にコンビニエンスストアが広がれば、インド人の食生活にも影響を与え、プラスチックの包装資材や家庭での冷蔵庫や電子レンジの普及・需要増が期待されます。



ニムラナ日本工業団地を放牧牛が占拠

【最後に】

富山県はインドと文化交流も盛んで、富山県文化施設団による和太鼓が12月16日にインドニューデリーで披露され、喝采を博していました。




富山県文化施設団による文化交流 2012.12.16

自由な風土の小規模技術集団

 三晶MEC株式会社

〒936-0861 滑川市中新1029-1
TEL 475-7195(代)
FAX 475-2924
<http://www.sanshogiken.co.jp>

安全と清潔を売る包装の

 株式会社 大樹

本社 〒939-0418 富山県射水市布目沢201
TEL(0766)53-1331(代) FAX(0766)53-1330
URL <http://daiki.org>

第5回技術開発・改善事例発表会開催

技術開発・改善促進啓蒙の目的で、会員相互の事例発表会と先進技術講演会を平成24年3月2日（金）、呉羽ハイツにて開催し、70名あまりの多くの会員が聴講した。

会員企業4社から、開発経緯や成果などの詳細な事例発表と参加者との熱心な質疑応答があり、各発表者に柳本技術委員長より奨励賞が手渡され、富山県立大学竹井准教授より講評を頂いた。

■第1部

【プラスチック工業会共同研究開発事例報告】

株タカギセイコー 開発技術部 山崎 鉄平氏
「SUSとエラストマーの接合」

【会員企業事例発表】

1. 株リッチェル

生産本部技術部技術課 萩原 衛氏
テーマ「水切れの良いトレイの開発」

2. 三晶MEC株

成形課製造部 辻口 真人氏
テーマ「インサート成形品の不良撲滅に向けて」

3. 三光合成株

次世代技術部 亀田 隆夫氏
テーマ「溶融樹脂粘度測定装置の製作とその評価-量産成形をするために-」

■第2部 先進技術講演会

講師 富山県立大学

准教授 博士(工学) 竹井 敏 先生

演題 「天然原料を主成分とするナノインプリント表面加工用高分子材料の開発」



事例発表者



参加者と質疑応答



竹井先生講演

富山県立大学
竹井 敏 氏

-Plastic 豊かな未来をひらく-

太平株式会社

TAIHEI Co., Ltd.

代表取締役社長 石崎 直樹

〒939-1690 富山県南砺市福光737
本社・本社工場 TEL(0763)52-1136
高宮工場 TEL(0763)52-1216

TAKAGISEIKO

革新を続けるプラスチック創造企業

株式会社 タカギセイコー

代表取締役社長 笠井 千秋

本社/富山県高岡市二塚322-3 ☎(0766)24-5522代

優良企業視察

平成24年6月8日（金）、会員各社から18名が参加して、視察会を実施した。

■小松精練株本社

資本金約46億円、売上高344億円の石川県を代表する企業です。商品はファブリックの染色加工を主たる事業としています。その高収益と成長を支える要は、「世界に冠たるファブリックメーカーになる」という強い意志と、そこから生まれる研ぎ澄まされた感性と機能技術等を学びました。

小松精練株を視察して

株大樹 製造部 班長 北村 智氏・清水智明氏

この度、優良企業視察研修会で小松精練株を視察させていただきました。

小松精練株は、衣装ファブリック、資材ファブリック、製品部門の3事業から成り、ファッション衣料・スポーツ衣料・ユニフォーム用・インテリア・車輻内装材（シート）など、最先端のファブリックの製造・販売を行っている。

その中でも、衣料用の素材で皮のような硬さを持った「KONBU-N」という製品（カバン、ジャケットなど）が印象に残った。ネーミングの由来は海産品の昆布のようなドライ感、縮り感からきているとのことだが、綿は柔らかいという一般常識を覆して硬い製品を作る発想は素晴らしいと思った。ファブリック以外に、屋上/壁面断熱材・緑化材・舗道・車道用ブロックなど多量の雨水などを保持し、寒い時には暖かく暑い時には涼しい、高い断熱・保温効果を発揮する保水セラミックパネル（グリーンビズ）も開発・販売している。

ファブリック・セラミックパネルともに現時点でも素晴らしい製品ばかりだが、それに満足しないでさらに良い製品にするために、日々、研究・開発に取り組む姿勢が素晴らしいと思いました。

またCO₂削減・節水・省エネのための設備や、社員・家族による海岸や公園などの清掃活動にも取り組み、社員一人一人の環境・社会貢献活動への意識の高さを感じました。

今後、この経験を生かせるよう色々考えて活動していきたいと思っております。

今回このような機会を設けていただき本当にありがとうございました。

■株PFU ProDoSセンター

年商1,000億円を誇る石川県の代表企業です。世界No.1のシェアを持つイメージスキャナをはじめ、さまざまなソリューションビジネスを展開しています。そのコアは、「技術と信頼」です。業界最先端を走り続ける企業のあり方と技術開発、商品開発のすごさを学びました。

株式会社PFUを視察して

高陵プラスチック工業株 営業課長 高橋智也氏

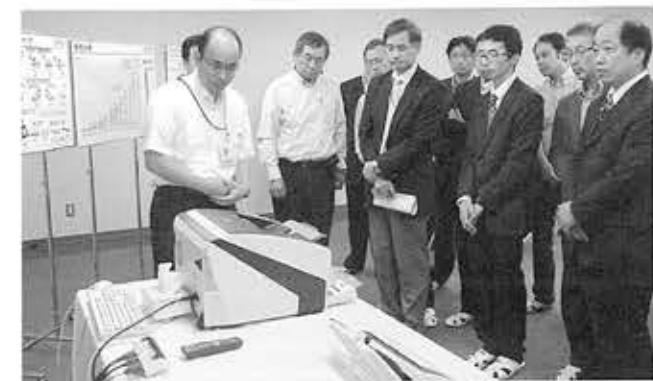
この度は、優良企業視察研修会という貴重な経験をさせていただきありがとうございます。

株PFUは、イメージ処理のトップメーカーで、産業界で活用されているスキャナー類には、独特の優れた技術が盛り込まれていることを知ることができました。

視察工程では主要製品ごとに展示・説明ルームがあり、実際に各種イメージ処理製品を作動させて詳しい説明をして頂きました。煩雑な手間を無くすため操作を簡易化し、利用者の処理スピードアップ、負担軽減に尽力したとのお話で、小さくても優れたもののスキャナーにもその性能の優秀さに参加者からは感嘆の声がもれておりました。

1mm厚ほどのIDプラスチックカードでも、その表面の情報を読み取ることができて、しかも、読み取り紙面や媒体をどのような方向で挿入しても、正位の文字に並べ直して情報を保管してくれる。まさに、抜きん出たコンピューター技術の底力を見た思いが致しました。

今回このような機会を設けていただきました、県プラスチック工業会の方々、並びに株PFUの方々に心より感謝申し上げます。ありがとうございます。



プラスチック成形技術高度化セミナー開催

平成24年11月29日（木）富山県技術交流センターで開催された。

今般のセミナーでは、プラスチック素材に関するものとプラスチックの表面加工に関するものを、実務と技術論のバランスに配慮して展開した。

【第一部】13：30～15：00

演題 「ポリカーボネート樹脂の特性とSSPCグレード開発動向」

講師 住化スタイロンポリカーボネート株式会社
 応用開発研究所 製品開発グループ 梅山 哲氏

【第二部】15：10～16：40

演題 「プラズマを用いたプラスチック表面処理」

講師 株アルス北陸営業所 営業部 斎藤 優和氏

プラスチック成形技術高度化セミナーに参加して

株タカギセイコー 開発技術部 藤井 美里氏

プラスチック表面にプラズマ処理を行うことで塗装の接着力を増加させることができる点に興味を抱きました。写真や図を用いた解説により、接着力が向上するメカニズム等の難しい内容も理解することができ、今後の仕事に活用できる知識を増やすことができました。また、お話ばかりではなく、装置の操作方法や表面改質の効果を間近に確認することができる実演が斬新であり、充実したセミナーでした。



産官学金オープンセミナー出展参加

富山県新世紀産業機構主催による「産官学金オープンセミナー」が、平成24年11月14日12時30分より、今回初めて高岡市にて開催された。京都大学の松本絃総長による「育人（いくじん）」をテーマとする基調講演、パネルディスカッションに続いて、出典参加企業団体によるポスターセッションに移った。

当工業会会員企業の戸出化成株式会社がポスターセッションに出典参加され、高畑社長自ら熱弁を振るわれた。内容は天然素材を高度な技術を駆使して各種プラスチックにブレンドする材料開発が中心で、多くの聴講者から活発な質疑が寄せられ、たいへん注目されていた。



モノづくりは、人づくり。
 大きな夢を育てたい。



戸出化成株式会社

本社・工場 高岡市戸出西部金屋414
 〒939-1114 TEL (0766) 63-5152 (代表)
 FAX (0766) 63-5099



TOYOKAKO

優れた技術と確かな品質でお応えします。

東洋化工株式会社

取締役社長 中田 守人

〒936-0857 滑川市下梅沢1350番地
 TEL (076) 475-2125 FAX (076) 475-9471

共同研究取り組み

Vol.31では、平成23年度に取り組んだ共同研究テーマの終了まとめと、平成24年度から取り組んだ共同研究テーマの経緯を紹介します。

【1】平成23年度共同研究の終了まとめ

平成23年度富山県新世紀産業機構

「高度技術実用化支援事業」

テーマ：SUSとエラストマーの接合

共同研究チーム：富山県工業技術センター、株タカギセイコー（主幹企業）、三晶MEC株、株リッチェル、戸出化成株、富山県プラスチック工業会

H23年度前半の研究内容については会報Vol.30にて報告した。研究の後半はその後の課題として残された接合強度の向上と評価、水密評価、長期安定性評価に取り組んだ。

まず、接合強度向上のため樹脂の改質を試みたところ、改質による効果は小さく、成形条件の変更とエッチングの強化により接合強度の向上を図った。それらのせん断引張り接合強度は0.8MPa程で、基板孔食への樹脂残りを確認することが出来た。

次に、水密性を耐水圧試験により評価した。テストピース形状で2MPa程度の水圧にも耐え、漏れが無いことを確認した。

そして、長期安定性を塩水噴霧試験等により評価した。SUS基板は時間経過に対して接合強度の低下が確認された。SUSの腐食が原因と考えており、耐塩水のSUSを用いることにより解決が期待できる。これらの内容はH23年度に事例発表会や成果報告書にて報告している。

今後は量産を考慮した場合の基板や廃液の処理メーカーを模索することや、本研究で得られた接合技術をいかに市場へ展開するかが課題である。

（株タカギセイコー開発技術部 山崎鉄平）

【2】平成24年度共同研究の取り組み

富山県内の大学・高専・公設研究機関の産学官連携機構を通じて平成24年度から取り組む共同研究テーマを調査検討したところ、富山県立大学の竹井准教授が取組んでおられるナノインプリント関連の研究テーマを選んだ。そしてこの研究活動を「平成24年度富山県新世紀産業機構 先端技術実用化支援事業」に申請して採択を得た。

*共同研究テーマ：高精度微細金型離型性に優れたバイオマス材料のナノインプリント成型プロセスの開発

*参加企業・機関：富山県立大学、富山県工業技術センター、株リッチェル(主幹企業)、株タカギセイコー、三光合成株、三晶MEC株、戸出化成株

*共同研究の取り組み経緯

株リッチェルを代表企業として取組みがスタートした本研究は、高精度微細金型離型性に優れたバイオマス材料のナノインプリント成型技術により、金型と成型材料との離型性が改善し、大量生産時に発生するナノバターの剥がれ、微小欠陥、又は金型への成型材料の再付着による加工欠損の問題解決を目指す。

当工業会としても、会員相互の共同研究事業として引き続き取り組むこととし、当該事例発表会や国際学会（SPIE2013 Advanced Lithography（米国サンノゼ）とEM-NANO2013（金沢））等で研究進捗を発表する予定である。



地球環境創造 **TOYOX** 株式会社トヨックス

〒938-8585 富山県黒部市前沢4371
 TEL 0765-52-3131 FAX 0765-52-4245
<http://www.toyox.co.jp>

理想のモノづくりへ
 そのさらなる進化へ向けて

NISSEI 日精樹脂工業株式会社

●北陸営業所/〒939-8211 富山市二口町1-10-5
 TEL (076) 425-2638代 FAX (076) 425-2639
 ●本社・工場/〒389-0693 長野県埴科郡坂城町南条2110
<http://www.nisseijushi.co.jp/>

夏季経営セミナー開催

総務委員会では、平成24年7月25日（水）、呉羽ハイツで26名の参加者にて開催した。門前総務委員長より開会の挨拶があり、今回の経営セミナーの特徴・狙いどころについてコメントされた。すなわち、富山県内から日本国内、海外に至る幅広い世界での経営戦略を学ぶテーマ、講師の招聘を進めた。配布資料には書ききれない貴重な教訓も期待できることから、得られた情報を受講者個々に反芻して、活用の糸口を解きほぐして欲しいとのことであった。

【第1部講演】14:00～15:00

演題：「スポーツウエアの商品開発について」

講師：株ゴールドウィンテクニカルセンター 技術主席 沼田 喜四司氏

※「MXP」が「平成23年度第2回 県ものづくり大賞」を受賞されたことから、開発活動ならびに経営采配の妙などを織り込んでご講演。



沼田講師

【第2部講演】15:00～16:00

演題：「海外事業環境とGLOBAL化対応」

講師：株Y P K 専務取締役 平山 文夫氏

※成形加工機等を国内外に活発に販売される業界の目線から、海外の事情・動向や日本国内では触れにくい貴重な情報を織り交ぜて、グローバル化推進の知見などをご講演。



平山講師

【第3部講演】16:00～17:00

演題：「テレビの見方、新聞の読み方、モノの考え方」

講師：(財)北陸経済研究所 主任研究員 藤沢 和弘氏

※テレビや新聞、インターネットと情報が氾濫する時代にあって、信頼できる情報はほんの一部かもしれない。消費税から円高、国際問題等を例に、マスコミや一般論とは異なる視点をご講演。



藤沢講師

経営セミナーに参加して

株確井製作所 専務取締役 濱井 泉氏

第一部では、ゴールドウィンの沼田講師より、スポーツウエアの商品開発のお話がありました。「感動ビジネス」を展開するには、商品を買いたいと思われる力（説得力）と賞品パフォーマンス、買ってよかったと思わせる力（納得力）が必要であり、そのための市場情報が大切で、またこれが商品力だという内容が印象的でした。

第三部では、北陸経済研究所の藤沢講師による「テレビの見方、新聞の読み方、モノの考え方」についての講演がありました。時間をかけてマインドコントロールして行くのが新聞の怖さであるといった内容や、情報というものは常に偏在していて、色が付いているものであり、完璧な情報を集める事は無理だが、カンを磨き、自分で考えるクセをつける事が大切である。カンとヒラメキの強化のためには、体を鍛える事=心を整える事が重要であるとのお話が鮮烈でした。モノの考え方を日々鍛えて行きたいと感じた講演でした。

阪神化成工業株式会社

〒939-8183 富山市小中163番地
TEL (076) 429-1865代
FAX (076) 429-6042
URL <http://www.hansin.co.jp/>

ファインプラス株式会社

Fineplas Limited

FP Fineplas Japan

北酸株式会社

代表取締役社長 山口昌広

本社 〒930-0029 富山市本町11番5号
TEL (076) 441-2461 FAX (076) 441-2358
URL: <http://www.hokusan.co.jp>

MARUKI
原料販売
カラーリング加工
リサイクル加工
成形機及び周辺機器販売
各種輸出・入取引

代表取締役社長 伊東章

丸喜産業株式会社

本社 〒939-1273 富山県高岡市東付5658 TEL 0766-36-1464 FAX 0766-36-1429
小杉工場 〒939-0351 富山県射水市針原53-13 TEL 0766-56-9789 FAX 0766-56-9793
富山工場 〒939-2732 富山県富山市神中町横野137-1 TEL 076-466-8888 FAX 076-466-6877
福岡工場 〒939-0135 富山県高岡市福岡町本領58-1 TEL 0766-64-0027 FAX 0766-64-0028

労務研修会開催

総務委員会事業として、当工業会の労務研修でたいへんお世話になっている片境先生による労務研修会を開催しました。テーマは「退職金」、「定年延長再雇用」等に係る労務管理です。片境先生は具体的な事例をお話の柱にして詳しく解説していただけるので、受講者には解り易いと好評です。

講師 片境社会保険労務士事務所 所長 片境 貢氏

【第1回】平成24年5月15日（火）13:30～15:00

演題「退職金関係の留意点」

- 内容
- 1 富山県の退職金額の水準と推移
 - 2 退職一時金算定方法・各々の特徴・県内企業の各々の導入率
 - ① 一般的な退職時基本給等×支給係数×勤続年数
 - ② ポイント方式 在職中の社員各々ポイント点数×支給単価
 - ③ 定額制 単価×勤続年数+役職位別単価×在位年数
 - ④ 別テーブル方式 退職金算定基礎表により支給
 - 3 ポイント方式退職金制度設計の仕方
 - 4 退職金規程作成の留意点と就業規則（懲戒規定含む）各規定との関係



片境講師

【第2回】平成24年6月15日（金）13:30～15:00

演題「定年延長・再雇用等と労働条件・賃金・退職金制度の留意点」

- 内容
- 1 定年延長と勤務延長と再雇用の相違点
 - 2 再雇用者（嘱託社員）就業規則の規定例
 - 3 嘱託社員（有期契約）の労働契約期間の留意点
 - 4 労働条件の明示における労働条件通知書と雇用契約書の違い
 - 5 正社員就業規則より低い嘱託社員雇用契約は有効か
 - 6 定年後再雇用時の年次有給休暇の取り扱い
 - 7 更新・雇い止めの留意点
 - 8 定年延長と賃金・退職金制度の留意点
 - 9 制度見直しと不利益変更の留意点

【第3回】平成24年7月13日（金）13:30～15:00

演題「定年後再雇用等の年金+高齢雇用継続給付+賃金・賞与について」

- 内容
- 1 在職老齢年金
 - ① 年金はいつから受け取れるか
 - ② 年金はいくらぐらい受け取れるか
年金の計算のしくみについて
 - 2 雇用保険の高年齢雇用継続給付の受給のしくみ
 - 3 高年齢雇用継続給付金受給と年金減額について
 - 4 賃金・賞与と年金と継続給付金のしくみ
会社と社員にメリットのある最適賃金の求め方
 - 5 60歳～64歳と65歳以上の違いについて



技能検定

平成24年度プラスチック成形技能検定合格状況

射出成形（1級）

	年度	受検申請者	学科			実技			技能士	
			受検者	合格者	合格率	受検者	合格者	合格率	合格者	合格率
富山県	平成20年	60	33	27	81.8%	58	6	10.3%	7	11.7%
	平成21年	55	22	16	72.7%	54	13	24.1%	12	21.8%
	平成22年	66	37	32	86.5%	64	20	31.3%	22	33.3%
	平成23年	52	26	23	88.5%	52	3	5.8%	3	5.8%
	平成24年	60	28	19	67.9%	58	9	15.5%	9	15.0%
全国	平成20年	2,016	1,207	771	63.9%	1,738	480	27.6%	485	24.1%
	平成21年	1,827	1,022	764	74.8%	1,623	445	27.4%	487	26.7%
	平成22年	1,869	980	684	69.8%	1,701	444	26.1%	457	24.5%
	平成23年	1,801	911	587	62.7%	1,637	485	46.6%	467	32.8%
	平成24年	1,804	998	615	61.6%	1,612	451	28.0%	427	23.7%

射出成形（2級）

	年度	受検申請者	学科			実技			技能士	
			受検者	合格者	合格率	受検者	合格者	合格率	合格者	合格率
富山県	平成20年	127	108	68	63.0%	109	69	63.3%	62	48.8%
	平成21年	90	77	56	72.7%	81	44	54.3%	40	44.4%
	平成22年	105	81	56	69.1%	89	51	57.3%	55	52.4%
	平成23年	105	80	64	80.0%	95	53	55.8%	57	54.3%
	平成24年	82	60	31	51.7%	74	47	63.5%	37	45.1%
全国	平成20年	3,887	2,985	1,906	63.9%	3,007	1,375	45.7%	1,464	33.7%
	平成21年	3,550	2,567	1,764	68.7%	2,776	1,183	42.6%	1,216	34.3%
	平成22年	3,663	2,517	1,737	69.0%	3,014	1,439	47.7%	1,443	39.4%
	平成23年	3,518	2,408	1,509	62.7%	2,955	1,376	46.6%	1,277	36.3%
	平成24年	3,714	2,615	1,373	52.5%	3,010	1,383	45.9%	1,224	33.0%

■射出成形技能検定に関する受検者の課題

- ※最近の受検者は、記憶してきた数値を機械に入力しており、製品を観察しての不具合対策が出来ない。
- ※基本的な温度・背圧に対する知識が不足している。例えば、体感温度での温度判断が無い。
- ※離型剤の知識が無い為に悪戦苦闘して、減点対象となるケースが多い。
- ※ここ数年は検定時間内で金型が外せず、打ち切り及び欠品の受検者の割合が高くなっている。時間内で作業終了出来ない最大の要因は、最後のPE樹脂への切替技術力の不足である。

- ※大半の受検者は射出2次圧切替位置・保圧力の関係を把握していない為、ウェルド・ヒケ対策が出来ない。
- ※製品判定基準の理解不足及び不具合対策能力が不足している。
- ※本年度は特に金型取付爪のセット不十分、初期型開タイム未入力が挙げられる。
- ※ノギス取扱い知識不足の為に正確に製品測定が出来ない。
- ※受検者の中には金型そのものが起因の傷か、型開後発生した傷かの判断出来ないケースが多い。
- ※受検に必要な技術力[レベル]が伴わないまま1・2級[レベル]を求めて受検しているケースもある。
- 受検者は、受検前の講習だけではなく、日々研鑽して受検してほしい。

富山県プラスチック工業会認定
押出成形（1級）技能検定

	年度	受検申請者	学科			実技			技能士
			受検者	合格者	合格率	受検者	合格者	合格率	合格者
富山県	平成23年	4	3	2	66.7%	4	3	75.0%	1
	平成24年	7	5	4	80.0%	4	2	50.0%	3

押出成形（2級）技能検定

	年度	受検申請者	学科			実技			技能士
			受検者	合格者	合格率	受検者	合格者	合格率	合格者
富山県	平成20年	25	19	18	94.7%	18	13	72.2%	22
	平成21年	21	17	8	47.1%	19	17	89.5%	9
	平成22年	22	20	13	65.0%	12	11	91.7%	13
	平成23年	20	19	11	57.9%	10	8	80.0%	8
	平成24年	18	15	11	73.3%	10	9	90.0%	8

■押出成形検定実技の受検者の課題

- ※学科検定に関して(1・2級共通)
※専門用語や必要な言葉の意味を正確に理解していない傾向が多々見られる。用語や言葉の意味をしっかり理解することが技術・技能向上の基本である。
- ※実技検定に関して(1・2級共通)
※時間内に作業を終了できないケースが増えた。普段の作業での意識づけと、予備講習会での集中習得を期待する。

研修講習事業報告

前期レベルアップ研修会

と き：平成24年4月10日～26日
と ころ：ポリテクセンター富山



健康管理講演会

と き：平成24年4月24日
と ころ：富山第一ホテル
演 題：「生活習慣病と生きがいのある人生」
講 師：社会保険高岡病院
糖尿病センター長 小林 正氏



射出成形実技講習会

と き：平成24年5月7日～6月28日
と ころ：ポリテクセンター富山



定期総会記念講演会

と き：平成24年5月30日
演 題：「中小企業は独り立ちしよう！」
講 師：北陸AJEC
理事・調査部長 杉山 正樹氏

労務研修会

と き：平成24年5月15日
講 演：「退職金関係の留意点」
と き：平成24年6月15日
講 演：「定年延長・再雇用等と労働条件・賃金・退職金制度の留意点」
と き：平成24年7月13日
講 演：「定年後再雇用等の年金+高齢雇用継続給付+賃金・賞与について」
と ころ：富山技術交流センター2F
講 師：片境社会保険労務士事務所
所長 片境 貢氏

優良企業視察

と き：平成24年6月8日
と ころ：①小松精練株式会社
②株P F U ProDesセンター

射出成形学科講習

と き：平成24年7月21日
と ころ：ポリテクセンター富山
講 師：元 名古屋工業研究所
所長 林 盛彦氏



経営セミナー

と き：平成24年7月25日
と ころ：呉羽ハイツ
演 題：「スポーツウェアの商品開発について」
講 師：株ゴールドウィンテクニカルセンター
技術主席 沼田 喜四司氏
演 題：「海外事業環境とGLOBAL化対応」
講 師：株Y P K
専務取締役 平山 文夫氏
演 題：「テレビの見方、新聞の読み方、モノの考え方」
講 師：(財)北陸経済研究所
主任研究員 藤沢 和弘氏

緊急用 都市型水害対策商品 環境に優しい手袋 製法特許出願済・食品衛生法適合商品

中国特許取得済み 丸和ケミカル

シリコンコート

丸和ケミカル株式会社

富山県高岡市野村1636番地1 商品の詳細はウェブをご覧ください。
TEL 0766-22-6672 FAX 0766-22-2494 丸和ケミカル

研修講習事業報告

後期レベルアップ研修会

と き：平成24年10月9日～12日
と ころ：ポリテクセンター富山



押出成形実技講習会

と き：平成24年10月10日～17日
と ころ：富山県工業技術センター



押出成形実技技能検定

と き：平成24年10月23日～11月9日
と ころ：ポリテクセンター富山



押出成形学科講習会

と き：平成24年11月10日
演 題：高岡テクノドームB会議室



プラスチック技術高度化セミナー

と き：平成24年11月29日
と ころ：富山技術交流センター2F
講 演：「ポリカーボネート樹脂の特性とSSPC
グレード開発動向」
講 師：住化スライロンポリカーボネート株
主席研究員 梅山 哲氏
講 演：「接着と印刷のためのプラスチック
表面処理について」
講 師：株アルス
営業部 斎藤 優和氏

押出成形学科技能検定

と き：平成24年12月1日
と ころ：富山県民会館509号室



会員広場

創立50周年記念式典で優良従業員表彰式

10月26日（金）に富山第一ホテルで表彰式があり、15名の方が受表彰されました。誠にありがとうございました。

表彰は5人ずつ壇上に迎えられ、笠井会長より一人ひとりを順に読み上げて賞状を授与されました。受賞された方々は小林製薬ブラックス株の池田清子さんをはじめ、右記の皆様です。



笠井会長より表彰状授与

優良従業員受表彰者

氏 名	企 業 名
池田 清子	小林製薬ブラックス株
上坂 幸盛	三光合成株
大井 基実	株碓井製作所
大谷 親儀	株リッチェル
岡本 覚昌	太平株
奥野 睦代	株タカギセイコー
川上 三郎	株タカギセイコー
草間 敏雄	株リッチェル
佐竹 勝美	阪神化成工業株
柴田 誠	三光合成株
鳥 久美子	高陵プラスチック工業株
清水 敏彦	株トヨックス
霜 鳥 剛	三協化成株
浜木 和也	株トヨックス
吉田 光子	ファイブプラス株

懇親ボウリング大会開催13社18チーム90名が参加

平成24年7月1日（日）の9時頃には、大会開始1時間前というのに会場である小杉クワトロブームは、雨をもともせず、参加者のかなりの方が駐車場の車中で開場を待っていた。いざ開場となるや、マイボール・マイシューズを持参の方々をはじめ、参加者が受付でのエントリーを次々と済ませた。そして、はやる気持ちを抑えながらチーム指定のレーンで準備を進めた。

定刻には全員揃ってスムーズに試合開始を迎えた。世話役の浅谷さんの試合説明の後、待ちに待った投球開始。短い練習時間を終えて、さっそく試合開始。会場は一段とヒートアップした。そして、あちこちでストライクやスペアのガッツポーズにハイタッチ！まさにこれこそボウリングの醍醐味だ。

2ゲームの時間はアツという間に過ぎて、ハイレベルの個人優勝争いや団体戦の行方が気になる頃、試合終了を迎えた。結果は別表をご覧ください。

団体優勝は株タカギセイコー「チーム氷見」、個人優勝は株タカギセイコー海老さんでした。団体戦・個人戦の飛び賞などを表彰して、名残惜しい中、歓声溢れボウリング大会の幕を閉じた。

本年の参加チームが若干減ったことから、来季はもっと参加チームが増えることを期待致します。

団体の部（1チーム5名 計10ゲーム）

	チーム名	企業名
優 勝	チーム氷見	株タカギセイコー
準優勝	チームNEO	株タカギセイコー
3 位	三光合成 富山工場	三光合成株
4 位	チームOK	高陵プラスチック工業株
5 位	ミュキ化成	ミュキ化成株

個人の部（2ゲーム）

	チーム名	企業名
優 勝	海老 彰	株タカギセイコー
準優勝	紙屋 安久	株タカギセイコー
3 位	天池 茂	三光合成株
4 位	安岡 康弘	日本安全産業株
5 位	碓井 智博	株リッチェル



団体の部優勝 株タカギセイコー「チーム氷見」



個人の部優勝 株タカギセイコー海老 彰さん

未来への限らない挑戦
プラスチックの総合メーカー



株式会社 ミユキ化成株式会社

代表取締役社長 延澤 泰明

〒939-0351 富山県射水市戸破針原53-14
TEL (0766) 56-9500代 FAX (0766) 56-9495
URL: http://www.miyuki-kasei.co.jp/



暮らしに笑顔を咲かせます。

株式会社 リッチェル

富山市水橋桜木136 〒939-0592
TEL (076) 478-2250 http://www.richell.co.jp/

プラスチック家庭用品・園芸用品・ペット用品・ベビー用品・工業用品・環境用品・介護用品・エクステリア用品・工業用品・マイクロチップ・ソーラー製品等の製造販売

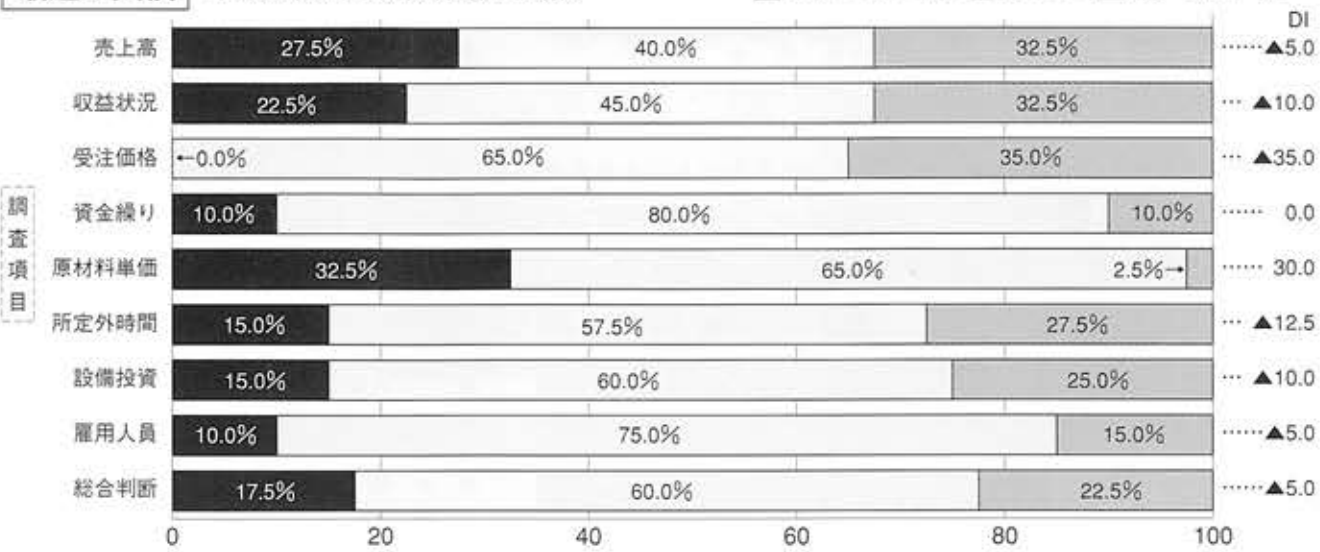
(広告に、企業名の50音順で掲載しています)

会員企業アンケートによる景況調査

最近の実績

平成24年4月～24年6月/前年同期比

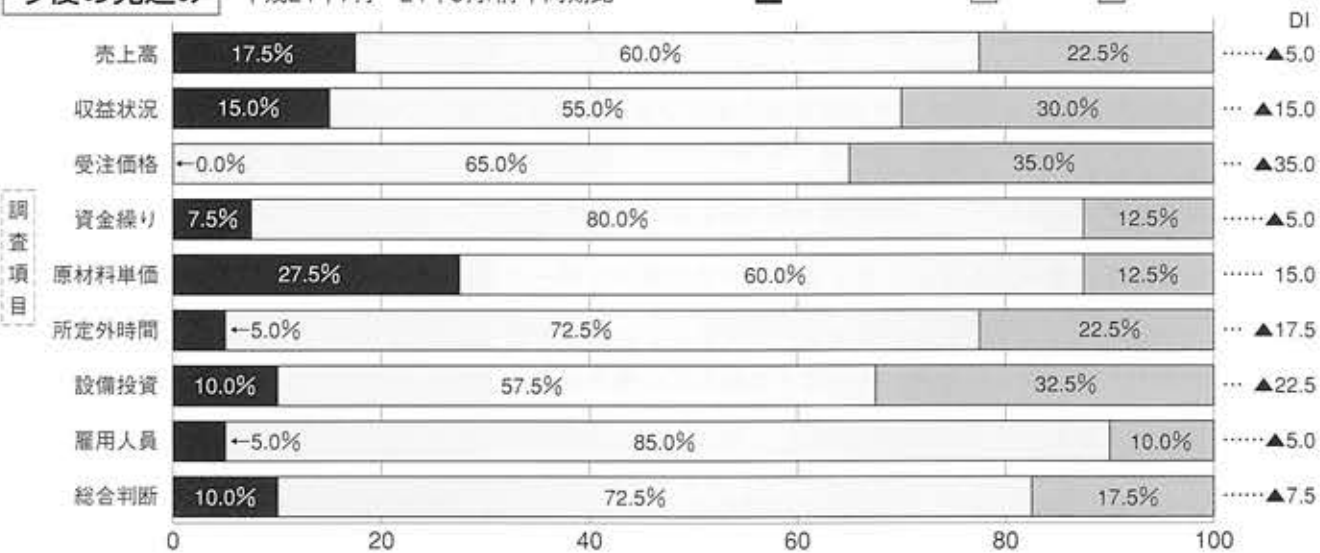
■ 増加・好転・上昇 □ 変わらず ▨ 減少・悪化・低下



今後の見込み

平成24年7月～24年9月/前年同期比

■ 増加・好転・上昇 □ 変わらず ▨ 減少・悪化・低下



雇用について

①24年4月学卒者入社実績

ある	41.2%
ない	50.0%
未定	8.8%

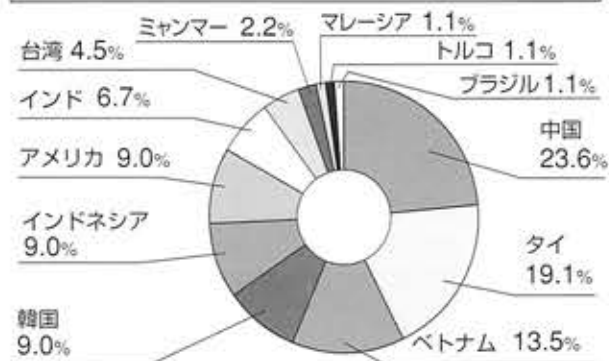
②24年4月～9月の中途採用実績・予定

ある	32.4%
ない	38.2%
未定	29.4%

③24年4月～9月の雇用削減実績・予定

ある	2.9%
ない	76.5%
未定	20.6%

海外企業とのビジネス等に関して、注目している国・地域は？



H24年4月以降の節電対応について

H23年度使用実績により低い目標を掲げて節電対策に取り組む…37.8%

H23年度使用実績により高い電力使用量となる見通しだが節電対策を続ける…32.4%

特に節電取り組み予定はなく、節電目標の設定もない…29.7%

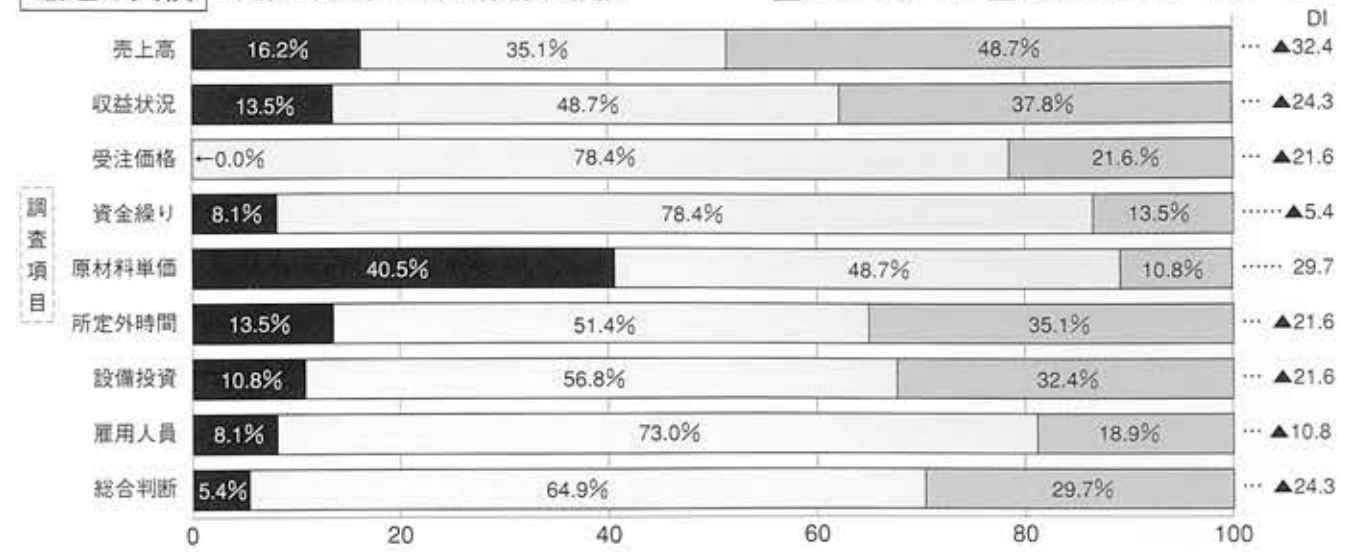
節電目標数値

5%	46.7%
2%	20.0%
1%	13.3%
7%	6.7%
6%	6.7%
3%	6.7%
	100.0%

最近の実績

平成24年10月～24年12月/前年同期比

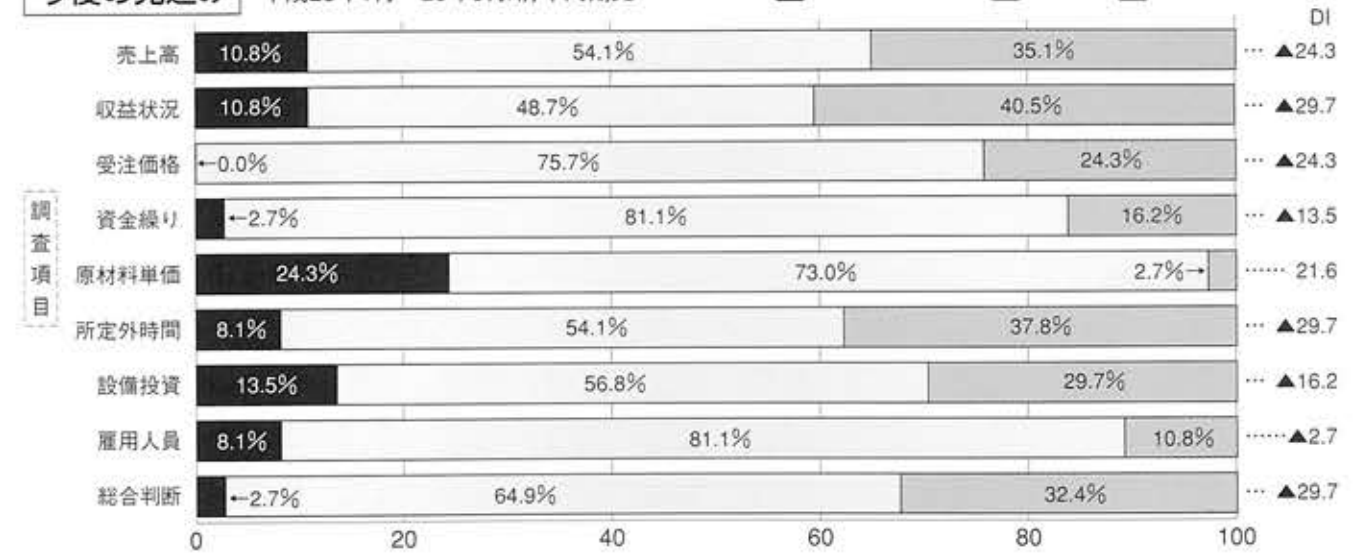
■ 増加・好転・上昇 □ 変わらず ▨ 減少・悪化・低下



今後の見込み

平成25年1月～25年3月/前年同期比

■ 増加・好転・上昇 □ 変わらず ▨ 減少・悪化・低下



雇用について

①25年度学卒者入社予定

ある	42.1%
ない	44.7%
未定	13.2%

②25年1月～6月の中途採用予定

ある	28.9%
ない	42.1%
未定	28.9%

③5年1月～6月の雇用削減予定

ある	0.0%
ない	68.4%
未定	31.6%

近隣国との領土問題に端を発した緊張から、現時点で国内あるいは海外ビジネスにおいて貴社の事業にどの程度影響を受けていますか？

たいへん大きな支障を受けている	5.3%
大きな支障を受けている	18.4%
小さな支障で済んでいる	21.1%
ほとんど影響を受けていない	52.6%
たいへん好調になっている	0.0%
好調になっている	2.6%
少し好調になっている	0.0%

諸外国のカントリーリスクについて

たいへん大きな懸念を感じている	5.6%
大きな懸念を感じている	38.9%
多少気になる程度である	25.0%
ほとんど懸念を感じない	13.9%
よくわからない	16.7%

リスクが大きいと感じる国名は？

中国	61.9%
韓国	19.0%
インドネシア	4.8%
タイ	4.8%
ヨーロッパ	4.8%
米国	4.8%

近隣国との緊張によるビジネスへの影響が、どのくらい続くと推察しますか？

概ね6ヶ月ほど	15.6%
概ね1年ほど	37.5%
概ね2年ほど	21.9%
概ね3年以上	25.0%

